

## 英語教育は Can Do リストで

－足利市英語教育推進プロジェクト会議で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

**Q：足利市英語教育推進プロジェクト会議とは何ですか。**

A：(林明夫：以下省略)栃木県足利市教育委員会が、足利市の英語教育の推進策の策定のために2011年12月に発足させたものです。本年9月までに8回の会議が予定されています。座長は、日本における英語教育の第一人者のお一人である吉田研作上智大学外国語学部教授。副座長は、小学校から高校まで国語などの一部の授業以外のほとんどを英語で行う群馬県太田市にある群馬国際アカデミーの小笠原敬三中学高校部校長。メンバーは、足利市教育長、地元の中学校長、足利市のベテラン英語教師OB・OG2名の先生、新学習指導要領の策定に参加した東京都墨田区の前中学校長、東京都江戸川区の小学英語教育に熱心な元小学校長、経産省の元局長、慶應義塾大学の外国語教授法に情熱を傾ける先生と私の10名。1回の会議がアツという間に終わるくらい熱心な議論が、厳しい現状を踏まえながら英語教育のあるべき姿を目指してなされています。

**Q：どのような議論がされているのですか。**

A：例えば、先日の2月16日の第2回会合では、座長の吉田先生から、吉田先生が委員を務める文科省の外国語能力の向上に関する検討会から昨年6月30日に発表された「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策－英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて－」の紹介がなされました。

**Q：どのような内容ですか。**

A：英語力の向上は、教育界のみならずすべての分野に共通する喫緊かつ重要な課題。求められる英語力は、例えば臆せず積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度、相手の意図や考えを的確に理解し、理論的に説明したり、反論・説得したりできる能力など。新学習指導要領の着実な推進は、我が国の国民の英語力向上のための基本。以上の基本の下に、5つの提言をしています。

**Q：5つの提言とは何ですか。**

- A：(1)生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する。  
(2)生徒にグローバル社会における英語の必要性について理解を促し、英語学習のモチベーションを図る。  
(3)ALT、ICT等の効果的な活用を通じて、生徒が英語を使う機会を増やす。

- (4)英語教員の英語力・指導力の強化や学校・地域における戦略的な英語教育の改善を図る。
- (5)グローバル社会に対応した大学入試となるような改善を図る。

**Q：Can Do リストとは何ですか。**

A：提言の第一の生徒に求められる英語力についてその達成状況を把握・検証するために、実用英語技能検定などの外部検定試験を活用することが大事。国は、国としての学習到達目標として Can Do リストを設定して公表し、達成状況を把握することが具体的施策として提言されています。

英語検定では、各級の4技能の各々について Can Do リストが整備されつつあります。例えば、5級の「読む」はアルファベット「A～Z」を読むことからスタートし、極めて詳細、具体的に「～することができる」という形で Can Do リストができています。

**Q：林さんはこの会議で何を主張していますか。**

A：新学習指導要領とその推進策としての5つの提言は、子どもたちの将来の活躍を見据えて極めてよくできているので、学校の英語教師はその実現のためにリストをフル活用し、全力を尽くすべき。英語教授法を身につけた上で、英語の授業はできるだけ英語で行うことを目指すべき。できれば、「第2言語としての英語教師」の大学院修士課程の資格を、足利市のすべての英語教員は10年以内に取得、英語教育のレベルを一気に上げるべき。

このような主張をしています。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者や経営幹部の先生方に、英語教育についてお願いしたいことはありますか。**

A：「5つの提言」と、英語検定の各級別「Can Do リスト」は非常によくできています。HPで検索なさり、是非御一読頂き、皆様の英語教育の内容に入れて頂ければありがたく存じます。

これらの議論の基本になっているのは、この「歩きながら考える」でも何回も御紹介させて頂いた「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(朝日出版社 2004年9月刊)ですので、是非、併せて御熟読頂き、御自身で Can Do リストをお作り頂きたく存じます。

但し、生徒のモチベーションアップの前に、先生のモチベーションアップが英語教育にも不可欠です。英語の先生に、日本や世界の現代的課題を広く学ぶチャンスを与えて頂きたく希望します。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：最近読んだ文章の中で、最も参考になったものを御紹介させていただきます。

共同執筆・グループ 1984年「日本の自殺」、文芸春秋、2012年3月号です。ローマ帝国が庶民の「パンとサーカス」の要求に応えるために滅亡したことを教訓にしながら、日本の没落を阻止せよと1984年に訴えた論文。今からでも遅くないので、一人ひとりが、日本の将来のためになすべきことをなさねばと深く考えさせられました。

是非、御一読を。

－ 2012年2月22日記－